



横浜中華街（地理空間学会第3回大会巡検）
2010年6月20日 小野澤 泰子 撮影

地理空間学会ニューズレター

TOPICS

- ・会長挨拶
- ・第7回例会のお知らせ
- ・第3回大会報告，巡検報告
- ・総会報告
- ・学会賞受賞者コメント
- ・学会からのお知らせ

JAGS

会長挨拶

会長就任にあたって 白坂 蕃（帝京大学）

菅野峰明先生のあとを引き継ぐことになりました。「会長」などという器でないことは、本人が一番よく知っております。ただ、地理空間学会の会員の方々には、日頃からたいへんお世話になっていきますので、なにがしかの「お礼」のつもりで引き受けることにいたしました。どうぞ、よろしく願い申し上げます。

私は、大塚にあった東京教育大学で、また新生の筑波大学のキャンパスで、学位論文作成の指導を受けました。その過程で印象深い二つのことを思い出します。

その第一は「調査については専門の分野を学会などで発表するのは当然のことだ。しかし同時に、地域というものは生きているものだから、それを“まるごと”理解するという態度が、その研究者の認識の根底にないと、専門分野の研究論文はおもしろいものにならない」というものでした。つまり、「海外なら現地のことばの習得はもちろん、食べものや生活の仕方、その地域の文化・経済・政治なども含

めて、すべてに興味をもって歩き回らなければならない。専門家の論文は、地域文化の一部を切り取ったものだから、その一部分だけで地域の理解ができるなどと傲慢になってはならない。地域は全体として“まるごと”理解しなければならない」というものでした。

第二は「元来、学問と言うものは、すでに起こってしまった事象について、それがなぜ起こったか、その辿った経過が、なぜそうなったのかを論理的に説明することを目的とするものだ。起こってしまったことの説明をするのが学問である。論理的に、矛盾なく説明、記述ができればそれで終わりである。その研究活動のなかには、将来に対する予測は含まれていない。つねに現状説明という後ろ向きの仕事である。話はすべて推論である。その推論が論理的であれば、説得力を持つ」というものでした。

第一のことは、現在でもその通りだと思っていますが、第二のことには、現在ではすこし付け加えなければならな

いでしょう。つまり、「(自分の研究している事象について遠いか、近いかは別に) その研究対象とした事象の将来がどのようになるか(または、どのようにすべきか)を考えておく必要が現在ではある」と私は思います。しかし、それはあくまでも「予測」にすぎません。予測そのものは学問ではないと私は思いますが、地理学のおかれた現在の情勢をみますと、地理学者の教養とその目で「地理学の考

え方が社会発展の役に立つ」ことを宣伝したり、「国や地域の将来」を論じなければならないような社会的状況にあるものと考えます。

この学会が社会と地理学の発展に寄与するために、また「おもしろい地理学」の構築を目指して、会員各位の不断の努力を期待しております。

第7回例会のお知らせ

地理空間学会では、第7回例会を下記の通り開催致します。

- ◇ 日 時：2010年10月28日(木) 17:30～
- ◇ 発表者および演題：堤 純(愛媛大学)「外国でのフィールドワークにおけるIT利活用の事例」
- ◇ 会 場：筑波大学 筑波キャンパス 総合研究棟A111
(http://www.tsukuba.ac.jp/access/map_central.html)

◇ 交 通：つくばエクスプレス線「つくば駅」下車、6番バス乗り場「筑波大学循環」または「筑波大学中央行き」で約10分「筑波大学中央」下車。

自家用車でお越しの際は、本部棟1階警備室で駐車を申請して下さい。

第3回大会報告

6月19日(土)、20日(日)、神奈川大学において第3回大会が開催されました。大会参加者84名。当日は評議会の後、下記の研究発表が行われ、活発な議論が展開されました。

[一般発表]

- 秋元菜摘(東京大・院)「筑波研究学園都市中心部における歩行環境の現状と決定要因」
- 伊東敦子(早稲田実業)「知識・理解から参加・行動に導く地理教育の取り組みー世界の農業とフェアトレードの授業実践からー」
- 小林岳人(千葉県立沼南高柳高)「地理教育の視点から見た一般図と主題図の用語の定義に関する考察」
- 大関泰宏(岐阜大)「教科書記述からみた地理教育の理科学的特性」
- 藤田和史(神奈川大・非)・八久保厚志(神奈川大)・横倉節夫(神奈川大)「韓国・蔚山における地域産業政策の展開ー自動車産業クラスターを中心に」
- 佐々木緑(広島修道大)「産地の発展にともなう静脈部の変容ー長野県中野市エノキタケ栽培の事例ー」

呉羽正昭(筑波大)・伊藤貴啓(愛知教育大)・佐々木リディア(多摩市国際交流センター)・小林浩二(岐阜大)・ドゥミトレスク ビアンカ(ルーマニア科学アカデミー)「東ヨーロッパにおけるルール・ツーリズムの特性ールーマニアの事例を中心に」

[招待発表]

八久保厚志(神奈川大)「戦前期朝鮮半島における邦人酒造業の諸問題ー内地企業との産地間競争におけるいくつかの断面ー」

[特別講演]

平岡昭利(下関市立大)「島嶼研究とアホウドリーWhyからのGeography」

[ポスター発表]

- 橋本 操(筑波大・院)「野生動物による被害の空間分析ー長野県須坂市を事例としてー」
- 吉原 遼(筑波大・院)「歴史的町なみと文化の観光利用ー宮城県登米市登米地区を事例としてー」
- 磯野 巧(筑波大・院)「ノースクイーンズランドにおける観光地域研究ーエコツーリズムの視点からー」
- 高橋靖典(筑波大・院)「岩手県西和賀町における「地元

学」とその意義」
上坂元紀（筑波大・院）「たばこ小売業の変容－福井市中
心部を事例に－」
大道寺聡（筑波大・院）「地域公共交通の利用実態とその

機能－茨城県竜ヶ崎市コミュニティバス・城里町デマン
ド交通システムを事例として－」

総会終了後、1号館8階食堂において懇親会が開催さ
れました。参加者59名。

巡検報告

6月20日は「横浜における外国人居留地および中華街
の変容」と題し、巡検を行いました。主に、かつての開港
場や外国人居留地であった地域、元町や横浜中華街を当時
の絵地図や写真と、現在の地図や景観を見比べながら徒歩
で巡りました。晴天とまではいかないまでも、歩くには適
した天候のもと、全国から総勢27名の方々にご参加いた
だきました。午前中は「開港資料館」を見学した後、横浜
開港150周年を機に整備された旧開港場「象の鼻パーク」
で、かつての横浜の景観を、資料に基づいてオーガナイザ
ーが解説しました。また「マリンタワー」では、高さ100

mの展望台から現在の横浜港の様子をご覧いただきまし
た。午後は横浜中華街を巡りながら、中華街の形成や新華
僑の進出について解説しました。

不慣れな案内ではありましたが、参加者の方々には非常
に多くの関心をもっていただきました。また、現在の景観
と資料に掲載された過去の様子とを見比べながら巡検を
楽しんでいただけたことは、私どもにとって存外の喜びと
なりました。参加された皆様に、この場を借りて心より御
礼申し上げます。

（巡検オーガナイザー、齋藤譲司会員）

総会報告

日 時：2010年6月19日（土）17：10～17：50

場 所：神奈川大学横浜キャンパス1号館 8階会議室
参加者：38名

地理空間学会2010年度総会は、2010年6月19日（土）
17：10～17：50、神奈川大学横浜キャンパス1号館8階
会議室にて開催された。山下清海常任委員長の開会の辞、
菅野峰明会長の挨拶があった。根田克彦会員を議長に選出
し、橋本暁子会員に書記を委嘱した。

① 会務報告（山下常任委員長）

●会員数

2010年6月16日現在 237名（一般会員：181名、大
学院生会員：45名、学生会員：12名）

●第2回大会の開催

2009年6月20日・21日、筑波大学筑波キャンパス。
参加者数：70名。

●機関誌「地理空間」の刊行

第2巻1号：2009年6月20日。

第2巻2号：2009年12月20日。

内容：会長講演1編、論説4編、研究ノート1編、

調査報告2編、資料1編、書評8編。

●例会の開催

第4回例会（2009年4月23日）筑波大学筑波キャン
パス（参加者57名）

第5回例会（2009年10月10日）筑波大学東京キャン
パス（参加者34名）

第6回例会（2010年3月10日）筑波大学筑波キャン
パス（参加者53名）

●ホームページおよびメーリングリスト(jags-ml)の運営

●ニュースレターの発行

第4号（2009年5月12日）、第5号（2009年9月26
日）、第6号（2010年2月4日）

●2010年度学会賞の受賞者の決定

選考委員会：小林浩二（委員長）、矢ヶ崎典隆、井田仁
康、村山祐司（事務局）

【学術賞】

合田昭二

受賞対象：合田昭二著『大企業の空間構造』原書房、2009
年2月、246p.

堤 純

受賞対象：堤 純著『土地利用変化のメカニズム』古今書院，2009年3月，172p.

平岡昭利

受賞対象：平岡昭利編『離島研究 III』海青社，2007年12月，220p.

平岡昭利編『地図で読み解く日本の地域変貌』海青社，2008年11月，333p.

平岡昭利編『離島に吹くあたらしい風』海青社，2009年9月，111p.

湯澤規子

受賞対象：湯澤規子著『在来産業と家族の地域史－ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産－』古今書院，2009年1月，238p.

渡辺理絵

受賞対象：渡辺理絵『近世武家地の住民と屋敷管理』大阪大学出版会，217頁，2008年1月，228p.

【奨励賞】

李 虎相

受賞対象：(1)李 虎相（2008）：社会ネットワーク分析にもとづく国際航空ネットワークの構造，地学雑誌，117，985-996.

(2)Ho-Sang Lee（2009）：The networkability of cities in the international air passenger flows 1992-2004，Journal of Transport Geography，17，166-175.

清水克志

受賞対象：(1)清水克志（2008）：日本におけるキャベツ生産地域の成立とその背景としてのキャベツ食習慣の定着－明治後期から昭和戦前期を中心として－，地理学評論，81-1，1-24.

(2)清水克志（2009）：近代日本における野菜種子流通の展開とその特質－盛岡近郊の種苗業者の取引記録からの考察－，歴史地理学，51-5，1-22.

田中耕市

受賞対象：(1)田中耕市（2008）：1990年代における東京23区の都市密度と土地利用の変化-事務所建築物と集合住宅を対象に-，地学雑誌，117-2，479-490.

(2)TANAKA, Kouichi（2008）：Recent trends and issues in modern transportation geography in Japan. Geographical Review of Japan，81-5，292-302.

(3)田中耕市（2009）：中山間地域における公共交通の課題と展望. 経済地理学年報55-1，33-48.

【特別賞】

矢ヶ崎孝雄

受賞対象：猪垣に関する一連の研究

② 決算報告・監査報告（兼子会計委員長代理）

2009年度の一般会計および特別会計の決算案が提示され，会計監査人（内山幸久会員・淡野明彦会員）より承認を受けたことが報告された。2009年度決算案は異議なく承認された。

<一般会計>

収 入

単位：円

科 目	2009年度予算	決 算	差 引
会費	750,000	648,000	-102,000
地理空間学会学術基金より繰入れ	0	0	0
機関誌販売	65,000	8,000	-57,000
頁超過料金	300,000	664,548	364,548
大会参加費	60,000	81,000	21,000
2009/4/1 ～2010/3/31 合 計	1,175,000	1,401,548	226,548

支 出

単位：円

科 目	2009年度予算	決 算	差 引
印刷製本費	990,000	1,095,360	-105,360
大会運営費	50,000	43,380	-6,620
通信・運搬費	80,000	55,710	-24,290
消耗品費	20,000	1,129	-18,871
事務費	15,000	0	-15,000
予備費	20,000	0	-20,000
繰越金	0	205,969	205,969
2009/4/1 ～2010/3/31 合 計	1,175,000	1,401,548	226,548

2009 年度 総収入	1,401,548
2009 年度 総支出	1,401,548
収 支	0

＜特別会計＞

単位：円

収 入		支 出	
前年度繰越金	404,920	2009 年度一般会計への支出金	0
寄付金	0	次年度繰越金	404,920
合 計	404,920	合 計	404,920

③ 2010 年度事業計画（山下常任委員長）

2010 年度事業計画について、「地理空間」第 3 巻 1 号・2 号の刊行，第 4 回大会の開催，例会の開催，ニューズレターの発行，ホームページ・メーリングリストの管理・運営と更なる充実が提案され，了承された。

④ 2010 年度予算案（兼子会計委員長代理）

単位：円

収 入		支 出	
繰越金	205,969	印刷製本費	1,000,000
会費	594,000	大会運営費	50,000
学術基金	100,000	表彰関係費	100,000
機関誌販売	24,000	通信運搬費	60,000
頁超過料金	300,000	消耗品費	10,000
大会参加費	60,000	事務費	10,000
		予備費	53,969
2010/4/1 ～2011/3/31 収入合計	1,283,969	2010/4/1 ～2011/3/31 支出合計	1,283,969

⑤ 次期役員・専門委員会の構成（山下常任委員長）

次期役員および専門委員会（2010 年 7 月 1 日～2012 年 6 月 30 日）の構成員について提案され，了承された。

会長：

白坂 蕃（帝京大学）

会計監査：

櫻井明久（駒澤大学），平岡昭利（下関市立大学）

常任委員：

山下清海（常任委員長，筑波大学），呉羽正昭（庶務委員長，筑波大学），森本健弘（集会委員長，筑波大学）兼子 純（会計委員長，筑波大学），手塚章（編集委員長，筑波大学）

評議員：

浅見良露（久留米大学），井田仁康（筑波大学），市南文一（岡山大学），伊藤 悟（金沢大学），岡村 治（立正大学），小口千明（筑波大学），小野寺 淳（茨城大学），兼子 純（筑波大学），菊地俊夫（首都大学東京），呉羽正昭（筑波大学），小林岳人（沼南高柳高等学校），小宮正実（（株）帝国書院），酒井多加志（北海道教育大学），篠原秀一（秋田大学），平 篤志（香川大学），高橋重雄（青山学院大学），田林 明（筑波大学），椿真智子（東京学芸大学），手塚章（筑波大学），中西僚太郎（筑波大学），中村康子（東京学芸大学），仁平尊明（北海道大学），根田克彦（奈良教育大学），松井圭介（筑波大学），村山祐司（筑波大学），森本健弘（筑波大学），矢ヶ崎典隆（東京学芸大学），山下清海（筑波大学），山下宗利（佐賀大学），若本啓子（宇都宮大学）

＜専門委員会＞

庶務委員会：

呉羽正昭（委員長），大石貴之，福田 綾

会計委員会：

兼子 純（委員長），横山貴史，栗林 賢，水谷千亜紀

集会委員会：

森本健弘（委員長），鈴木富之，中村文宣，市川康夫，遠藤貴美子

編集委員会：

手塚章（委員長），松井圭介（副委員長），井田仁康，小口千明，小林浩二，櫻井明久，須山 聡，田林 明，堤 純，中西僚太郎，橋本雄一，丸山浩明，村山祐司，矢ヶ崎典隆，山下 潤，Thomas C. Waldichuk（書記）：藤田和史，吉田国光，橋本暁子，橋本 操，Jennifer Martin

学会賞選考委員：

小林浩二（委員長），矢ヶ崎典隆，井田仁康，村山祐

司（事務局）

⑥ その他

「地理空間」の超過ページ料金が改正されたことが手塚編集委員長より報告された。

〔現行〕刷り上がり 12 頁まで：無料

13 頁以降：10,000 円／頁

〔改正〕刷り上がり 12 頁まで：無料

13 頁～16 頁：10,000 円／頁

17 頁以降：5,000 円／頁

学会賞受賞者コメント

この度、地理空間学会 2010 年度学会賞の学術賞を受賞された合田昭二先生と、湯澤規子先生から受賞のコメント

をいただきました。

地理空間学会賞・学術賞 合田 昭二会員

すぐれた研究者の集まる地理空間学会より賞をいただき、心より光栄に存じています。これまで、地理学のさまざまなテーマについて調査してきましたが、今回選ばれた拙著の内容は、私が若いころの研究テーマの延長上にあることを、改めて回顧しています。

大学院生のころ最も興味を持ったのは大企業ではなく、「産地型産業」における中小企業の集積とネットワーク型結合でした。そのころ活発だった織物産地を中心に、いろんな繊維産地を調べました。これらは繊維産業のうち「川下部門」でしたが、自ずと関心が繊維産業の「川上部門」へと広がり、紡績業における急激な工場減少と生産品目転換に注目して、紡績大企業の立地変動の分析を、多国籍的展開をも含める形で行いました。

関心はさらに川上に遡上して合成繊維に至りましたが、ここでは企業内空間的分業が鮮明なので、中間製品の物流が形づくる工場間ネットワークを調査しました。以上は織

維という「糸へん」分野でしたが、問題意識は「金へん」つまり重工業系の大企業を取り上げる際にも継続し、航空機工業における大企業間のネットワーク体制、すなわち、世界的な巨大企業を頂点とする大企業工場間の固定的な分業関係に着目しました。

この様な形で、自分自身の関心はイモツル式に繋がりがつ、多様な業種を取り上げてきましたが、体系的に整理する論理が必要だと、調査と並行していつも思っていました。その過程で、「企業の地理学」における「Multi-plant Enterprise」と「Production System」の2概念が、大企業を対象とするネットワーク分析と立地変動分析を体系化するキーワードであることが確信でき、一冊にまとめることが可能となりました。

問題意識の出発点である大学院生のころ以来、諸先生や先輩・友人から多くのご指導、ご指摘をいただきました。感謝の気持ちを新たにしています。

地理空間学会賞・学術賞 湯澤 規子会員

この度は拙著、『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産—』（古今書院）に対して、学会賞（学術賞）という光栄な賞を頂戴し、ありがとうございました。今、振り返ってみますと、私の20代はこの調査研究と共にあり、それをまとめるためにあったように思います。初めて調査地に足を踏み入れてから既に十数年が過ぎようとしています。その過程で学んだことは多く、結城紬をめぐる一連の研究は、私にとって、

立ち返るべき原点となりました。そのような研究を評価していただいたことはとても嬉しく、今後の調査研究への大きな励みとなりました。

「地域の特徴や歴史の行方は、地域に生きる人々のかけがえのない人生によって彩られている」という確信が、いつも私の調査研究の原動力となってきました。この着想は学生時代からの様々なフィールドワークにおける人々との出会いによって得たものであり、それを形にする試行錯

誤が拙著をまとめる過程となりました。ライフヒストリー分析という研究手法を地理学に援用し、新たな地域像を描く試みは、時にその手法の限界を吟味することを迫られました。しかし、その問いに答えようと奮闘した過程もまた、隣接諸分野との議論を深めるきっかけとなり、一地域のモノグラフをより大きな枠組みで意義づける重要性を知る経験となりました。

過日、久し振りに結城紬生産地域を再訪しました。驚いたことに、この数年の間に地域はさらに大きく変化していました。今、あらためて考えてみますと、私自身が調査研

究の渦中にあったがゆえに客観視できていなかった現象も少なくなかったように思います。結城紬をめぐる近年の変化については、もう一步踏み込んで、私自身の残された課題として取り組まなければ、と気持ちを新たにすることができました。

この度の受賞を励みとして、今後も地道なフィールドワークを重ね、在来産業や家族経営についての考察を深めるとともに、新たな課題に真摯に向き合っていきたいと思います。

学会からのお知らせ

<編集委員会からのお知らせ>

1. 編集委員会彙報（5月～9月）

5月：「論説」2編について閲読結果をもとに検討し、「論説」2編の受理を決定した。

6月：新規投稿「論説」1編の担当委員および閲読者を決定した。

7月：新規投稿「論説」1編の担当者および閲読者を決定した。

9月：新規投稿「研究ノート」3編、「調査報告」1編の担当委員および閲読者を決定した。

2. 「地理空間」の発行および投稿について

「地理空間」3巻2号は2010年12月20日、4巻1号は6月20日の発行を予定しております。原稿は随時受け付けており、査読を経て受理された論文から順次掲載して参ります。会員の皆さまの寄稿をお待ちしております。

投稿規程や執筆要領については、地理空間学会ホームページもしくは「地理空間」第1巻2号をご覧ください。

3. 「地理空間」定期購読のお願い

本学会の活動を知っていただくため、会員の皆さまの研究室や大学・高校の図書館等での「地理空間」の定期購読をご検討いただけますようお願い申し上げます。ご購入いただける場合には、学会事務局までお知らせ下さい。

4. 「地理空間」掲載論文のリポジトリ等への掲載について

掲載誌が刊行されてから半年を経過した場合には、大学等の学術リポジトリや著者本人のホームページ等へ自著の論文の掲載を認めます。掲載論文の電子ファイルが必要な方は、学会事務局までお知らせください。

<会計委員会からのお知らせ>

1. 会費納入のお願い

2010年度年会費をまだお支払いでない方は、「地理空間」第3巻1号に同封しました振込用紙でお支払い下さい。

会員の皆様のご協力により、多くの方々から会費の納入をいただいておりますが、まだ若干名、過年度の会費納入がお済みでない方もいらっしゃいます。過年度分未納の方

は、2010年10月20日（水）までにお支払下さい。納付したかどうか不明な方や振込用紙を希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

また、大学を通じて電子振込みなどをされる場合には、必ず氏名とご所属先の明記をお願い致します。

2. 「地理空間学会学術基金」の募金について

「地理空間学会学術基金」の募金活動について、会員の皆さまの一層のご理解とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

〔地理空間学会学術基金の内容〕

名称：地理空間学会学術基金

目的：地理学の優れた研究者を育成することを目的として、その研究活動の充実を図るための資金として活用する。

募集対象：本学会の活動理念を理解し、本寄付の趣旨にご賛同いただける方。

ご依頼額：1口2万円（何口でも可能です）

お問い合わせ先：地理空間学会事務局

〔振込方法〕

1. ゆうちょ銀行への現金での振込

口座記号：00150

口座番号：707452

2. 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

店番：019

店名：〇一九店（セ”ロイチキュウテン）

預金種目：当座

口座番号：0707452

受取人名：チリクウカンカ”ツカイカ”クシ”ユツキキン

基金への寄付をしていただいた方のお名前は、機関誌「地理空間」やホームページ等に掲載させていただきます。お名前の掲載をご希望でない方は、「匿名希望」とご記入下さい。

編集後記

地理空間学会ニューズレター第8号をお届けします。デザインを変更しましたが、いかがでしたでしょうか。

ご案内のように、地理空間学会の第7回例会を筑波大学筑波キャンパスで開催いたします。皆さまどうぞ奮ってご参加下さい。

ニューズレターでは学会関連情報を掲載していきますので、掲載すべき情報やご要望がございましたら事務局までお寄せ下さい。最新の情報は学会ホームページで随時更新しております。本会では、会員間の情報交換の手段として、メーリングリスト（jags-ml@geoenv.tsukuba.ac.jp）を開設しております。すでに多くの方に参加していただいておりますが、まだ登録されていない方でメールアドレスをお持ちの方はぜひご参加下さい。

今年の夏は猛暑日が続いておりましたが、秋分の日を境に急速に秋が深まり、サンマのおいしい季節となりました。会員の皆さま、どうぞ短い秋を堪能しつつ、体調を崩されませんようお気を付け下さい。

地理空間学会ニューズレター 第8号

発行日：2010年10月7日

発行所：地理空間学会事務局

〒305-8572

茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学大学院地球環境科学専攻内 地理空間学会事務局

TEL/FAX 029-853-6873

E-Mail geospace@geoenv.tsukuba.ac.jp